



きすみの

教育目標 『ふるさとからつなぐ 夢の種をまき 花開く来住っ子』

校 訓 【 かしこく やさしく たくましく 】

☆デジタル機器とわたしたち☆

「信じる」ためには、根拠や人との関係性が必要になります。相手の立場や気持ちなどを想像して、信じることが生まれてくるのではないのでしょうか。匿名で投稿する SNS (X) などに、違和感はありませんか。匿名とすることにより、批判をし、罵倒し、主張しやすくなっているのではないのでしょうか。匿名は、他人を言葉で傷つけ、追い込み、発信に責任をもつことがありません。物ごとは光をどちら側から当てるとかで見え方が大きく変わります。一方向からのスポットでは別の側面に気づきにくいものです。見えていないものを想像することは難しいですが、今、自分が見えているものが他人には全く違うものに見えているかもしれません。公平にみるためには、見方を意識し、想像することが大切です。

このような想像力を養うには、読書が非常に有効になると考えます。本は情報ではなく、行間から世界が多面的で多層的であることを教えてくれます。

6年生が1学期、国語「デジタル機器と私たち」の学習をし、提案する文章を書きました。一部、掲載します。(裏面もご覧ください)

ネットのウソ広める前に確認を

6年1組

1.提案のきかけ

(1) ニュースで見たこと、調べて分かったこと
よくニュースを見ているとネットのウソが
本当のことだと思い拡散してしまう。という
人が大ぜいいると見たことはないので、うか
た木でも簡単にとうこうできるため誤、大情
報、誤情報が流布しやすい人です。実際に新
型コロナのウソの情報がたくさん出て40%以
上の人々が、気づけなかつたようです。

(2) 解決したい課題

ネットのウソの情報に気づかず、「え、本
当に? みんなに知らせなきゃ」となり自分た
けだけでなく他の人にもウソだと知らされた
き、めいあくなかつた、というのでこの課題
を解決する方法を提案したいです。

2.提案

簡単だから気をつけよう

(1) つづいてもどこでもしうこうが簡単だからこ

「拡さん」や「ウソ」の情報を流さないようにその
情報は正しいのか、くちしく確認することを
私は提案します。なぜなら、確認せず、ウソ
の情報を見るとすぐに拡さんしてしまふ、お
そねがあるからです。具体的には次の二つを
提案します。

(1)よく注意し、何度も確認する。まず拡さん
しないようにくちたり、よく確認すること
です。

(2)自分から誤情報を流さないように自分で調
べて本当の話しを確認してから流します。

このようによく注意や確認、調べをひた
けて自分が誤情報を流したり拡さんをひせが
て他の人にもめいあくをかけなくなるのです。
このころころをひためていって誤情報が、すく
なくなることにつながると考えました。

3、まとめ

ネットは簡単で、すぐはそうこうでき、楽し
んでしまふため、すぐに誤情報を拡さんして

しまいに。だげとすぐに広めず、きづいた
 めに、発信元が信頼できる情報源の、確認し
 ーの情報はただでなく複数の情報源から、
 情報を集めて再度確認し、さす。インターネット
 トも安全に楽しんで利用するためには、常に
 情報リテラシーを意識し、うそや誤情報に
 まどわされないように注意することが重要な
 のであ。



☆文化や自然から学ぶ☆

5年生は、自然学校が始まり、潮風を身体いっぱいに感じながら、対話を弾ませ、自分たちで活動を前へ進めていっています。思いや考えたことを言葉にし、積極的に行動している5年生の姿は頼もしいです。

また、6年生は、もうすぐ修学旅行があります。歴史文化遺産と自然美が調和した奈良公園を市場小学校6年生と活動します。また、6年間学んできた外国語を生かす時でもあります。修学旅行で出会う外国の人と積極的に話すことに挑戦します。もしかすると、フランス語、ドイツ語、イタリア語・・・に気づき、ジェスチャーで一生懸命コミュニケーションをとることになるかもしれない緊張感と楽しさ、達成感も味わうことができるでしょう。様々な人、事、物と出会い、気づき、大きく成長する子どもたちをうんと支えたいと思います。

今月は、全学年で社会見学があります。五感で学ぶ内容の深さと広さを子どもたちは、なんとなく気付いています。社会見学の日、誰もが目を輝かせながら、いつも以上に見聞きし、かつ、その場所の雰囲気を楽しんでいます。



10月の主な行事予定

10月1日(水)～3日(金) 自然学校(5年)

8日(水)～9日(木) 修学旅行(6年)

13日(月) 小野市小学生陸上競技大会

14日(火) 児童朝会・集会

見守り隊下校支援

17日(金) クラブ活動

23日(木) マルコメ味噌食べ比べ教室(3年)

24日(金) クラブ活動

26日(日) 北播地区小学生陸上記録会

27日(月) 歯科保健指導(3年)

28日(火) キッコーマン校外学習(3年)

見守り隊下校支援

30日(木) 点字福祉体験(4年)

31日(金) 委員会

小野南中学校人権フィナーレ(6年)

※11月1日(土)・2日(日) 小野市学童展:伝統産業会館にて

6日(月) 代表委員会

10日(金) 須磨シーワルド(1・2年)

16日(木) 小中一貫出前授業(5・6年)

アイマスク福祉体験(4年)

20日(月) ハートフル弁当

稲刈り(5・6年)

青少年科学館(4年)

青少年センター下校支援

29日(水) 豆腐作り体験(3年)

ひまわり公園(1・2年)



6年国語「デジタル機器と私たち」

デジタル機器、使いすぎに注意しよう
6年一組
1. 提案のきかけ
(1) ぼくの体験と、調べて分かったこと
長い間画面ばかり見ていて、目が悪くな。たと、感じたこととはないだろうが。ぼくは、この経験をしている。インターネットで調べてみると、視力が10未満の子供が増えていることが分かった。
(2) 解決したい課題
デジタル機器などを使うとき、長い時間画面を見すぎると、視力が低下してしまう。どんな人でも画面を見ることが多くなっている。この課題を解決する方法を提案したい。
2. 提案
ルールなどを決めて使う
どこでも画面を見える時代だからこそ、しっかりルールを決めて見ることをぼくは、提案する。なぜなら画面を見すぎると視力が低下

下するからだ。具体的には、三つの提案をする。
(1) 画面を見るときは、使用時間を決め、休憩を挟みながら使う。
(2) 画面を見るときは、しゅりを直し、画面とのきょりを保ちながら使う。
(3) 画面を見た後など、屋外で過ごす時間をできるだけ長くする。
このように、ルールなどを決めるだけで、視力低下を少しでも防ぐことができるのだ。一人一人がこのようなことをすれば、視力が低い子どもが減らすことができるかもしれない。
3. まとめ
デジタル機器などは、おもしろいものがたくさんあり、つい夢中になってしまうことがある。しかし、そんなときは一度立ち止まり、ルールなどをしっかり決めよう。自分の楽しさをゆうせんして、自分の体を気にしないといけないことはおぼろけではないと思う。いつでもどこでも画面を見えるから、しっかりルールを決めて見るのが大切である。

身の周りにひそむネット依存症
6年一組
1. 提案のきかけ
(1) 私の体験と、調べて分かったこと
家でインターネットを使って遊んでいるとお母さんに「使いすぎたら依存症になるよ」と言われた経験があった。インターネットで調べてみると、年々多くの人々がネット依存症になってしまっていることが分かった。
また、依存症のせいで学校を不登校になったり、ネットの中でいじめが起きたりするところがあるというこの課題を解決する方法を提案したい。
(2) 解決したい課題
ネット依存症は、自分の本当の「楽しみ」が見つけれないからだと思う。みんなが気軽にできる楽しみを提案して、多くの人たちがネット依存症にならないようにさせたい。

2. 提案
ネット以外の「楽しみ」を見つけよう
ネットは、すぐにゲームなどができてしまう。それを使いすぎてしまうことで依存症の原因になってしまうと思う。ネットを使わずに、さかう「楽しみ」を見つけられる方法を見ようかしたい。
(1) 自然で遊ぶこと。自然で遊ぶことで、知らなかつた楽しさやうれしさが出てくる。
(2) しゅみを見つける。ネットよりも楽しいことを見つけることで、他の楽しさが見つかる。
3. まとめ
ネット以外の「楽しみ」を見つめることで、多くの人たちがネット依存症から避けられる対策方法だと思う。だから一人一人が「楽しみ」を見つけ、だれもがネット依存症にならない世の中をつくってみたい。

スマートフォンながらスマホに気をつけて

6年1組

1.提案のきっかけ

(1)私の体験と調べて分かったこと
外にいるとき、自転車や車に乗りながらスマートフォンをもちている人を見たことがないだろうか。私は、外にいるときに、自転車に乗ってスマートフォンをもちている人を見たことがある。インターネットで調べてみると、ながらスマホは重大な事故につながるということが分かった。「ながらスマホ」とは、長い時間、スマートフォンをそうさずすることだ。また、ずっと同じ体勢いでそうさずると、動けなくなったときにすぐ動けないときがあった。

(2)解決したい課題

ながらスマホをすると、交通事故にあったり身体にもえいぎょうするなど、命にもかかわってくる。私たち小学生にもスマートフォンをもちている人が多いからこの課題を解決

する方法を提案したい。

2.提案

安全な使い方をしよう

スマートフォンは、どこでも使えるからこそ、自分の都合ではなく「安全」に使うという意識をもつことを私は提案する。なぜならスマートフォンを自転車などでそうさして集中してしまうと、視野がせまくなり、命にかかわるかもしれないからだ。具体的には、次の二つを提案する。

(1)「ながらスマホ」はしない。同じ体勢で長い時間そうさせず時間を決めてそうさずる。

(2)自転車や車の運転中はそうさない。どうしても必要なときは止めてからそうさずる。このように、「安全」に使うことで身体や交通事故にもつながらず、みんなが安全に生活できる。

まとめ

スマートフォンは、いろいろな所でやくばつ。そのため、使う場所を考えずにしてしまったりつい夢中になってしまいがちだ。しかし、そんなときは、それは安全か考えることが大切だと考える。使うときは時間を決めて使うなどルールを決めて使おう。

